

交流，共同学習の記録

1 学校名，授業者名

- ・自 校 鹿角市立十和田小学校山根分校 滝澤 政夫
- ・相手校 大館市立山田小学校 津谷 徹

2 学年，組

- ・自 校 全校児童
- ・相手校 全校児童

3 交流，共同学習のねらい

- ・小規模校の児童同士がお互いの得意なことを紹介し合ったり、画面を通して交流したりする活動を通して、自分たちの学校や地域のよさを再認識するとともに、視野を広げることができる。

4 学校外の人にTV会議システム利用を広げるねらい（必要性）

- ・学校外の支援者 ALT
- ・ねらい 英語ゲームに挑戦する活動を通して、緊張をほぐし、和気藹々とした交流の雰囲気を出したい。ALT には、英語でゲームの仕方を説明していただくとともに、交流を大いに盛り上げてもらいたい。

5 実際

(1) 教科，単元名（題材名）

- ・学級活動 「山根キッズをよろしく」

(2) 本時のねらい

お互いの学校で取り組んでいるソーラン節を発表し合ったり、お互いが英語ゲームに挑戦する活動を通して、親睦を深めることができる。

(3) 本時の実際

学習活動	教師や（ 学校外の人 ）の支援
1 はじめのあいさつ	・お互いの学校にとって初めての経験なので、推進校である十和田小のTV授業担当者が進行をサポートする。 ・どちらの学校もソーラン踊りに取り組んでいるという共通点があることに気付かせたい。
2 得意なことを紹介しよう。 ・山根分校 「山根ソーラン・大太鼓」 ・山田小 「合奏・ソーラン節」	
3 ジェスチャーゲームをしよう。	
4 英語ゲームで遊ぼう。	・ALTが両校の児童に話しかけて、活動をリードする。ゲームの説明はすべて英語で行う。
5 感想を発表しよう。	
6 終わりの言葉	・次の交流につなげるように前向きな感想を発表させるようにしたい。

6 実践を通しての提言

- ・山根キッズは、これまで札幌のYOSAKOIソーランや、鹿角市内の様々なイベントに出演しており、地域の活性化の一翼を担ってきた。今回、山根ソーランを、鹿角市外の学校にも紹介できて、児童たちは大変満足そうだった。また、初めて見た山田小学校のソーラン節に対しても、大いに興味を示していた。今回の交流で、お互いに刺激し合うことができたと思う。
- ・英語ゲームについては、ALTとの打ち合わせを、もう少し綿密に行う必要性を感じた。テレビ会議システムを用いて、2校を相手に英語でゲームを指導するのはかなり難しいことだと思う。工夫次第では、もう少し盛り上がる活動になるような気がした。
- ・親睦を深めるというねらいについては、やはりTV画面による交流の限界を感じた。両校の間は30km程度の距離なので、実際に一度出かけて直に会って交流し、その後TVで交流した方が効果的だったような気がする。小規模校同士なので、これからも交流を継続していきたいと思う。